

第39回経営協議会議事録

日 時 平成26年1月28日(火) 14時00分～15時00分
場 所 ホテルクラウンパレス浜松3階「松の間」
出席者 中村(議長)、伊藤、上杉、猿田、御室、村本、鈴木(修)、高橋の各委員
陪 席 蓑島副学長(研究・社会貢献担当)、山崎監事、津田監事

1. 議事要旨の確認

第38回経営協議会議事要旨(案)を原案どおり確認した。

2. 議 事

(1) 報告事項

①平成26年度運営費交付金等の内示について

議長から、平成26年度運営費交付金等の内示について報告があった。また、法人化後の本学における、運営費交付金の交付状況について説明があった。

②大学と病院の経営の現状と課題について

議長から、大学運営の現状と課題(間接経費の受入状況、収入と支出の状況、自助努力による施設等の整備状況)及び今後の取り組み(機能強化推進経費の確保、経常経費の見直し)について説明があった。

引き続き、病院運営の現状と課題(病院収入の推移、設備更新財源の確保状況、自助努力による施設等の整備状況)及び今後の取り組み(医療機器の計画的な更新、キャリアパスの再構築、経費の節減、人員配置の見直し、病院収入の増収策)について説明があった。

③ロードマップについて

議長から、平成26年度からの組織改変、総務・教育・病院のロードマップについて説明があった。また、研究関連のロードマップについては、蓑島副学長より説明があった。

④ミッションの再定義について

議長から、医学系分野では強みや特色について、保健系分野では進捗状況等について説明があった。

(2) その他

①平成26年度経営協議会日程(案)について

議長から、平成26年度経営協議会の日程(案)について説明があった。

次回の経営協議会について(平成26年3月25日開催予定)

※学外委員からの主な意見（○：学外委員の意見等、◆本学側の意見・説明等）

議事（１）報告事項②について

- 平成 26 年度の診療報酬改定は、ほぼ横ばいだが、その影響はどの程度あるのか。
- ◆現状では、それほど大きな影響は及ぼさないのではと見ている。今後、ハイブリット手術室の整備や新型の医療機器の導入を予定しており、収入確保の方策を検討している。
- 新型機器等の導入については、厚生労働省の動向等を注視し、流れを慎重に見きわめてほしい。
- ◆新型機器の導入に当たっては、機器の問題だけでなく、使用する人の確保等の問題も発生するため、導入については慎重に検討を行う。
- 治験からの収益は、大きな影響を及ぼすため、治験収入の拡大を図ってはどうか。
- ◆本学のミッションの再定義の特色・強みには、高度な治験等の実施推進が定義されており、今後も困難な治験等の実施を推進していく。
- 病院全体の収支等の動きをしっかりと把握し、見える化したデータを元に、病院が一丸となって課題に取り組むことが必要だと思うが、浜松医科大学全体としての方針はどのようなものがあるのか。
- ◆一部分ではなく全体を見渡したうえでの、医療材料の統一、ジェネリック医薬品の導入、人員配置の見直し等を検討している。
- 病院スタッフ間での情報共有が非常に重要だと考える。また、全体を見る人間がリーダーシップを発揮し、課題に取り組む必要がある。
- ◆浜松医科大学独自の評価指標を作成し、各部署の努力が反映されるシステムの導入を検討している。
- 国立大学法人における大学と病院の収入の互換性については、どの程度制約があるのか。
- ◆目的積立金については各法人の裁量によっている。
- 運営費交付金の 1.3%減額が続いているが、いつまで継続されるのか。
- 基本的に減額は継続される予定である。

議事（２）その他について

- 平成 26 年度では、本会議の浜松医科大学での開催を検討願いたい。
- ◆1回は開催できるように検討をする。